

## はじめに

### －「国際ビジネスファイナンス研究会」について－

当研究会は、小職が麗澤大学在籍中の 2012 年 11 月に発足、その後隔月に開催され、2016 年 5 月の会で 22 回目に及ぶ。発足の経緯は、『国際ビジネスファイナンス』第 12 版<sup>1</sup>の翻訳を麗澤大学出版会から上梓したことにあり、その翻訳者が当初の研究会の中心メンバーとなった。

現在の麗澤大学関係者としては、上村教授の主導の下、真殿特任教授、清水元教授（現シンガポール大学他）、濱井氏（クラレ、麗澤高校卒）、上林氏（前川製作所、卒業生）、中嶋氏（ディー・クリエート、卒業生）及び久保田が中核メンバーを構成している。

当研究会の沿革としては、20 数年前に恩師諸井勝之助先生指導の下「国際財務の会」として『国際ビジネスファイナンス』の輪読をテーマに開始し、その後小職の開催する「経営財務の会」で研究を引き継ぎ、今般これらを発展的に解消し当研究会の発足に及んだものであり、実質的に既に 20 年以上の歴史を有する。

さて、当研究会では国際ビジネスファイナンスの研究を第一義的に目的とする。国際ビジネスファイナンスとはグローバリゼーションの中核をなす多国籍企業の財務活動に焦点をあて、コーポレートファイナンスをグローバルに拡大・展開するものであり、現在の日本経済の現状から見て極めて重要な実務に重きを置く学問である。

そのため、学問的レベルは当然保ちながらも、メンバーの多くを実業界出身者で構成し、国際ビジネスファイナンスに留まらず学際的な見地から多国籍企業を取り巻く種々な問題、即ち資源エネルギー問題、地政学的国際関係・外交問題まで広く議論している。

今般、麗澤大学のご支援を受けて第 1 回目の報告書を刊行できることになったことについては大変有難く、心から感謝を申し上げたい。次回以降ますます内容を充実させていく所存なので引き続きのご支援をお願いしたい。

なお日本では、この分野の研究は遅れが目立ち、大学でも国際ビジネスファイナンス（国際財務）をカリキュラムに持つところはきわめて少ない。麗澤大学におかれては、これを契機に当該分野の研究に注力し、大学の大きな特色として誇れる学問分野にされることを心からお願いし御礼の言葉に代えたい。

2016 年 7 月 久保田政純

---

<sup>1</sup> Eiteman, D., Stonehill, A. and Moffett, M.H. 2011 “Multinational Business Finance” 12nd.ed. Pearson Education, INC. (久保田政純・真殿達監訳、デビッド・K・アイトマン、アーサー・I・ストーンヒル、マイケル・H・モフェット著『国際ビジネスファイナンス』第 12 版、麗澤大学出版会、2011)

1973 年に初版が出版され、2016 年現在では第 14 版に至っている。国際ビジネスファイナンスの研究が世界で一番進んでいる米国においても他の追随を許さず、極めて高い評価を得ている本である。